

【学校教育目標】

心豊かでたくましく生きる生徒の育成

【本校の課題】

- ・中1男女ともに、長座体前屈、中1男子は50m走でも県の平均を下回っている。
- ・中2男子は握力、反復横跳び、20mシャトルランで、中3男子はボール投げ、握力以外で県の平均を下回っている。
- ・中2女子は反復横跳びで県の平均を下回っている。
- ・中3女子は長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルランで県平均を下回っている。

【現状】

- ・生徒数の急激な増加により活動場所の確保が難しく、運動場の使用を時間制にする等、身体を動かす機会が減少している。
- ・1日の運動・スポーツの実施時間が、1週間のうち男女ともに5日間において全国平均を上回っており、運動部活動にも顧問の指導のもと熱心に取り組んでいる。
- ・一方、部活動に所属していない生徒の増加やスマホの急速な普及等によって、屋外で運動する機会が減少している。運動の習慣化に課題があるため、運動の必要性を認識し、学校全体として家庭とも連携を図りながら望ましい運動習慣確立の手立てを行っていく必要がある。

保健体育の授業での取り組み

- ・新体力テストの結果から、毎授業の中で不足している体力についての補強運動を取り入れている。
- ・授業で培った資質能力を活かし、体育活動を通して心身の健全な発達と健康や運動に対する意欲や関心を高める。
- ・授業の中で活動時間を多く設けることで様々な運動に取り組むことができるようにする。

運動部活動や家庭との連絡

- ・新体力テストの結果を各顧問と共有し、練習内容に生かすようにする。
- ・個々の生徒に不足している体力要素について認識させ、向上させるためのトレーニング計画と実践を長期休業中の課題として取り組ませる。
- ・食事や睡眠等についての望ましい生活習慣を確立するために、生活リズムチェックシートを活用し、保護者にも呼びかけ、協力してもらう。

【目標】

- ・「運動する『時間』『空間』『なかま』」を生み出すことにより、運動機会を確保する。  
昼休みに運動場を開放し、積極的に運動をするよう促す。
- ・生徒増加によって活動する場の確保が難しい中で、参加した生徒が充実感を得られるように、部活動の充実を図る。
- ・家庭・地域との連携を通して、運動習慣・生活習慣の改善に向けた取組を推進する。